

# 令和 2年度 事務事業評価シート (令和 1年度分)

( 令和 2年 7月 作成)

1 事務事業の基本事項				整理番号	114000-01-01
事務事業名	電子計算業務技術支援			担当部課	企画部 情報政策課
				電話番号	04-2964-1111
総合計画 基本計画	施策の大綱			実施期間	平成5年 ~ 年
	政策(節)			その他の計画	入間市情報化基本計画
	施策(項)				
予算事業名	電子計算業務技術支援委託事業			予算事業番号	89
事務分類	<input type="checkbox"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 自治事務のうち任意のもの <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> サービス提供 <input type="checkbox"/> 施設整備 <input type="checkbox"/> 許認可事務 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input checked="" type="checkbox"/> 内部事務 <input type="checkbox"/> その他				
	実施形態 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
事業開始の背景・経緯	以前は、各課からのシステム開発要望に応え職員による自己開発を行っていたが、現在は専門技能を持つSEを委託により常駐させ、過去の開発資産の維持管理、最新技術に対応した改修、必要に応じた新規開発を行い、全庁的な事務の効率化を図っている。また、情報システムの増加に伴い機器やシステム運用に関する障害に対応する業務が増え、対応できる技術を持った人員を確保する必要があった。				

2 事務事業の目的・内容			
対象	市職員	実施の根拠 (法令・条例等)	なし
目的 (もたらそうとする成果)	1) 事務処理のシステム化・時代に即した維持管理により、市民サービスの向上及び事務の合理化を図る 2) システム・サーバーの運用保守を後方支援し、各課で導入した情報システムの安定稼働を図ると共に、障害時に早期復旧させる 3) システム開発・運用管理を専門知識を持つSEが実施することで、職員個人に属人化することなく人事異動に左右されず安定稼働させる 4) ICTに関するヘルプデスク業務を実施し、職員全体の業務効率化を図る		
全体の事業内容	1) 内部開発したシステムの保守や制度改正等による改修 2) パッケージシステムの無い小規模な新規システム開発の実施 3) システム障害時の障害内容切り分け(システム起因・機材の故障に起因) 4) 専門的知見を活かした権限管理やセキュリティに関するシステムの管理 5) 専門的知見を活かしたヘルプデスク業務及び端末等ICT機器全般の管理		

3 事務事業の実施状況と成果			
令和 1年度の実施内容	SE2名の内部開発により14システムの新規開発と既存103システムの保守管理(うち5システムの機能改修)を行った。なお、既存システムのうち1システムの運用を終了したため既存システムが前年度対比で減となった。 ※R1年度システム保守実績値の考え方 (前年度実績) 104 + (新規開発数) 14 - (運用終了数) 1 = 117		

区分	活動指標名	区分	単位	平成29年	平成30年	令和 1年	令和 2年	目標値の根拠・考え方 (前年度値の場合は「前年度実績」)	
実施状況	① システム開発	目標値又は前年度値	システム	8	3	11	10	新システムの開発数(年10システムを想定・R2から変更) R1までは前年度実績値	
		実績値	システム	3	11	16			
		達成率又は前年度比	%	37.5	366.67	145.45			
	② システム保守	目標値又は前年度値	システム	104	102	115	127	既存システムの改修、定期保守及び障害対応を要するシステム (R1実績値+R2システム開発目標値)	
		実績値	システム	99	104	117			
		達成率又は前年度比	%	95.19	101.96	101.74			
	③ ヘルプデスク対応件数	目標値又は前年度値	件	1,594	1,993	1,873	1,776	前年度実績値	
		実績値	件	1,993	1,873	1,776			
		達成率又は前年度比	%	125.03	93.98	94.82			
	④	目標値又は前年度値							
		実績値							
		達成率又は前年度比	%						
区分	成果指標名	区分	単位	平成29年	平成30年	令和 1年	令和 2年	目標値の根拠・考え方 (前年度値の場合は「前年度実績」)	
成果	① 要求仕様に対する完成度	目標値又は前年度値	%	100	100	100	100	システム化に対する要求仕様に対する完成度	
		実績値	%	100	100	100			
		達成率又は前年度比	%	100	100	100			
	②	目標値又は前年度値							
		実績値							
		達成率又は前年度比	%						

無印は実績値の増大によって達成率が向上するもの  
 ※印は実績値の減少によって達成率が向上するもの

4 事業費

区 分			平成29年	平成30年	令和 1年	令和 2年	
経 費	事業費	当初予算額	17,782 千円	19,700 千円	19,882 千円	25,872 千円	
		決算(見込)額 ①	17,782 千円	19,700 千円	19,882 千円		
	人件費	従事 職員数	一般職・労務職	0.28 人	0.15 人	0.13 人	
			嘱託・再任用	0 人	0 人	0 人	
			パート等	0 人	0 人	0 人	
		人件費 ②	1,797 千円	1,093 千円	1,082 千円		
	総事業費 ③=①+②		19,579 千円	20,793 千円	20,964 千円		
	国・県支出金 ④		0 千円	0 千円	0 千円		
	その他特定財源 ⑤		0 千円	0 千円	0 千円		
	特定財源 ⑥=④+⑤		0 千円	0 千円	0 千円		
入間市年間負担額 ③-⑥		19,579 千円	20,793 千円	20,964 千円			
効率性 指 標	指標名	システム保守(開発含) ⑦	99 システム	104 システム	117 システム		
	コスト	1システム当たり ③÷⑦	197,767 円	199,932 円	179,179 円		
備考 令和2年度は事業統合のため事業費増							

5 事務事業の評価

◆ 1次評価

個別評価	必要性	有効性	効率性
	<input type="checkbox"/> 必要不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い	<input type="checkbox"/> 大変有効である <input checked="" type="checkbox"/> 有効である <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> あまり有効でない <input type="checkbox"/> 有効でない	<input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> やや向上 <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> やや悪化 <input type="checkbox"/> 悪化
総合的評価	評 価		今後の方向性
	既存内部開発システムのメンテナンス作業に加え、新規開発を精査し実施することで、当該事業の効率性を保ちつつ原課業務の効率化に寄与し、システムの全体最適化が進んだ。R1年度は、連続帳票印刷外部委託に当たって印刷システムを開発したことで、費用を掛けずにスムーズに委託へ移行することができた。その他ヘルプデスク業務、3系統ネットワーク毎の権限管理やICT資産管理等、様々なICT運用管理を効率的かつ的確に実施することができた。		<input type="checkbox"/> 充実 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <hr/> <input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 完了・終了
改善課題	改 善 の 評 価		
	令和 1年度の取り組み課題 ホストコンピューター運用終了によるバッチ処理の置き換え作業が一段落したことで、今後は既存システムの保守を中心に実施し、新規開発は、パッケージシステムで用意されない業務を中心に実施する。これにより空いた人的資源を、セキュリティ関連業務や全庁的なICT運用管理業務等より専門的知識が要求される業務に充てることで、さらなる効率化を目指す。		
	令和 2年度の取り組み課題 既存システムの保守を中心に実施し、新規開発はパッケージシステムで用意されない業務を中心に実施する。新型コロナ関連で緊急開発案件が増加しているため、既存の開発・改修依頼案件との重要度・緊急度を精査してスケジュールを組み直し、市民サービスに影響が出ないように開発・改修を行うことで、原課業務の更なる効率化に寄与する。		
	令和 3年度の取り組み課題 既存システムの保守を中心に実施し、新規開発はパッケージシステムで用意されない業務を中心に実施する。これにより空いた人的資源を、セキュリティ関連業務や全庁的なICT運用管理業務等、より専門的知識が要求される業務に充てることで、さらなる効率化を目指す。また、ヘルプデスク業務では、全庁的な情報リテラシー向上を図ることを目的にOffice研修を実施することで対応に掛かる時間を減らし、Windowsアップデート等専門的業務に時間を割けるよう取り計らう。		

◆ 2次評価

総合的評価	今後の方向性	具体的内容
	<input type="checkbox"/> 充実 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <hr/> <input type="checkbox"/> 廃止・休止	既存システムの保守、セキュリティ関連業務等について、委託している派遣SEを幅広く有効活用する必要がある。専門性の高いスタッフの有効活用により、本業務実施における人的・経費的な効率化を図りつつ、引き続き庁内のICTの活用やシステムの全体適正化を推進することで、庁内全体の事務事業の効率化を強化する必要がある。